

「自己評価の結果」とそれを踏まえた「今後の改善方策について」

徳島市八万南小学校

1 はじめに

本校では、「強健な身体と根気強い精神力を養うとともに、知・情豊かな人間性の開発と連帯意識の高揚に努め、21世紀の担い手として、自ら生きぬく適確な判断力とたくましい実践力の育成に努める」を教育目標として、日々の教育活動に取り組んでいる。また、昨年度末に教職員で話し合った結果をもとに、今年度の重点目標を「確かな学びの場となる授業づくり」、「人権教育・特別支援教育の充実」、「体育・健康安全教育和生徒指導」、「家庭・地域との信頼関係づくり」、「危機管理への対応」とし、取り組んできた。特に、本年度は中四国体育研究大会が本校で開催された。大会実施に向けて教職員一丸となって取り組み、体育学習の発展に寄与することができたと思う。

今後、これらの教育活動をより充実したものにするため、年度末に保護者・児童にアンケートを実施した。さらに、それらの結果をもとに教職員の内部評価を行った。そして、これらの結果をもとに、今後の学校運営全般について教職員で話し合い、来年度の重点目標へ反映することにした。

(1) 回答数 教職員 (23)・保護者 (607)・児童 (630)

(2) 分析方法

各質問項目に対し、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」を肯定的意見、「あまりあてはまらない」「ほとんどあてはまらない」を否定的意見としてとらえた。また、平成21年度と22年度の経年比較も行ってみた。次の5つの視点(本校の重点目標)で評価をした。

① 確かな学びの場となる授業づくり

(個に応じたきめ細かな指導、「自己決定ができる」「自己存在感がもてる」授業づくりの展開など)

② 人権教育・特別支援教育の充実

(人権感覚の育成、自尊感情の育成、特別支援教育に対する理解や協力体制の確立など)

③ 体育・健康安全教育和生徒指導

(体力づくりの日常化、外遊びの奨励、系統的な保健指導など)

④ 家庭・地域との信頼関係づくり

(開かれた学校づくり、学校通信発行など)

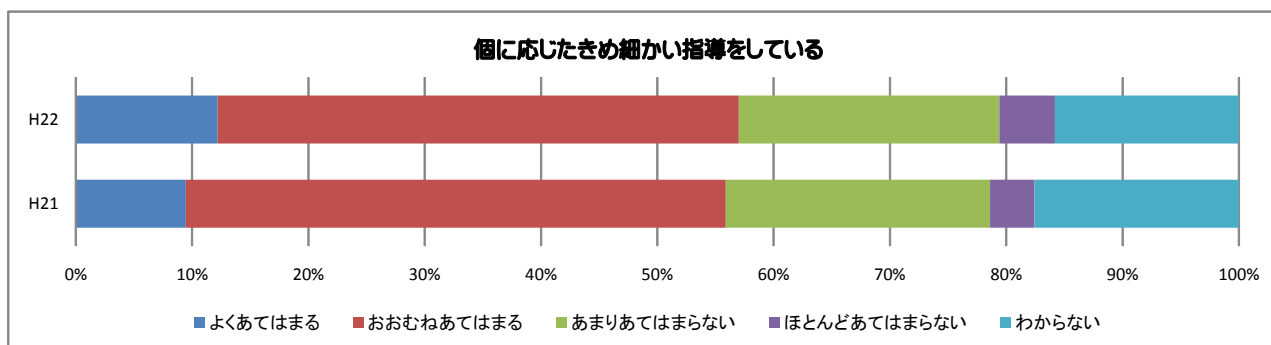
⑤ 危機管理への対応

(情報の共有、組織対応、見回り点検の励行など)

3 評価結果について

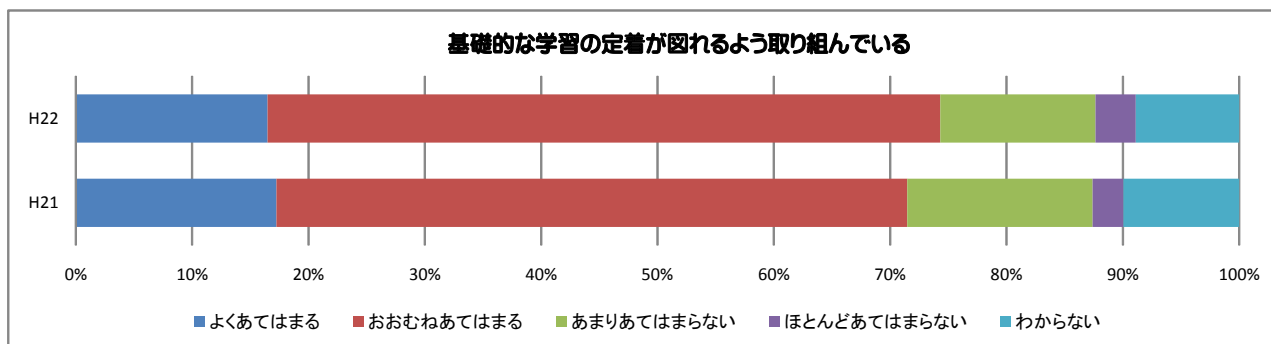
(1) 確かな学びの場となる授業づくり

保護者アンケート⑦「学校は、子どもたちの学力に応じて、個に応じたきめ細かい指導をしている」では、肯定的意見が57%に、⑧「学校は、漢字・計算などの基礎的な学習の定着が図れ

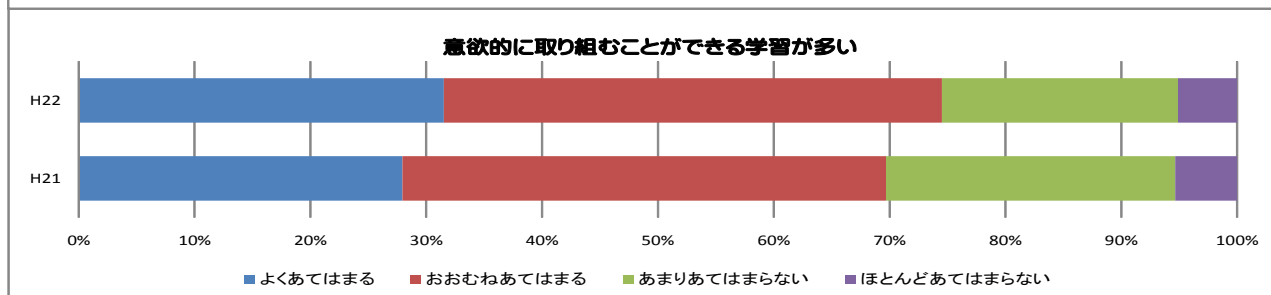
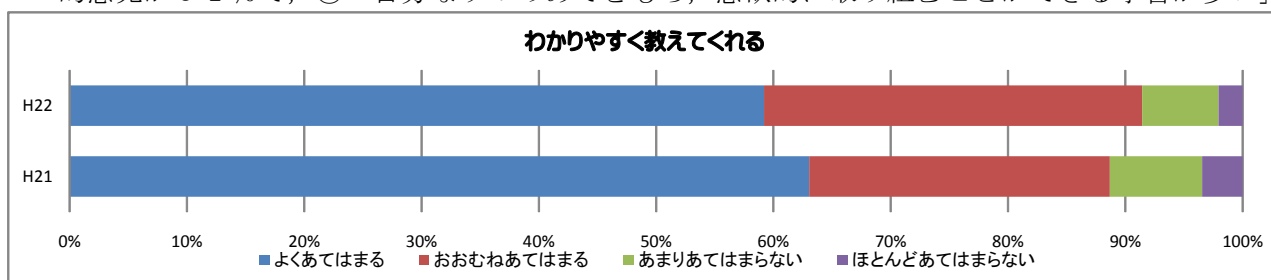


るように取り組んでいる」では、肯定的意見が74%と微増している。わからないという意見が

減少した分が、増加したと考えられる。



また、児童アンケート②「先生は、授業を工夫して、わかりやすく教えてくれる」では、肯定的意見が91%で、③「自分なりのめあてをもち、意欲的に取り組むことができる学習が多い」



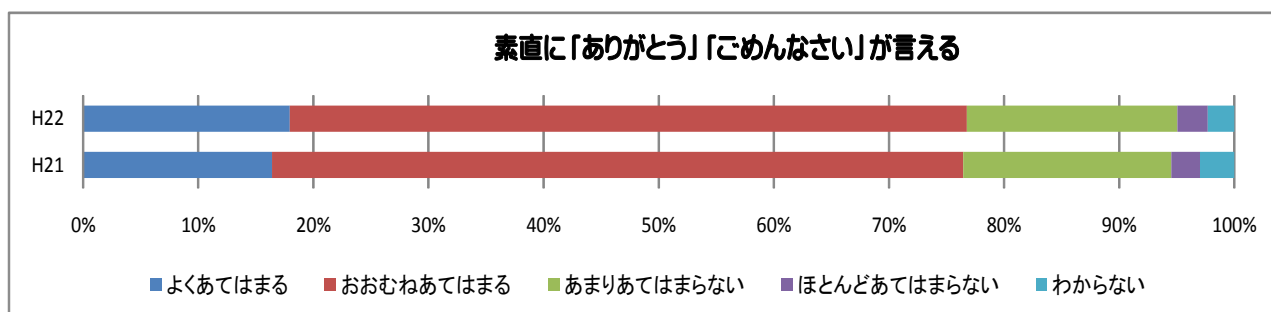
では、75%が肯定的意見であった。昨年と比較しても、明らかに増加している。学力向上への取り組みや中四国体育研究大会への取り組みが成果として出てきていると考えられる。

教職員アンケートでも、わかる授業、指導方法の工夫ではほとんど全員が肯定的意見であったが、個に応じたきめ細かな指導については肯定的意見が60%にとどまっている。きめ細やかな指導については、今後の課題であると考えられる。

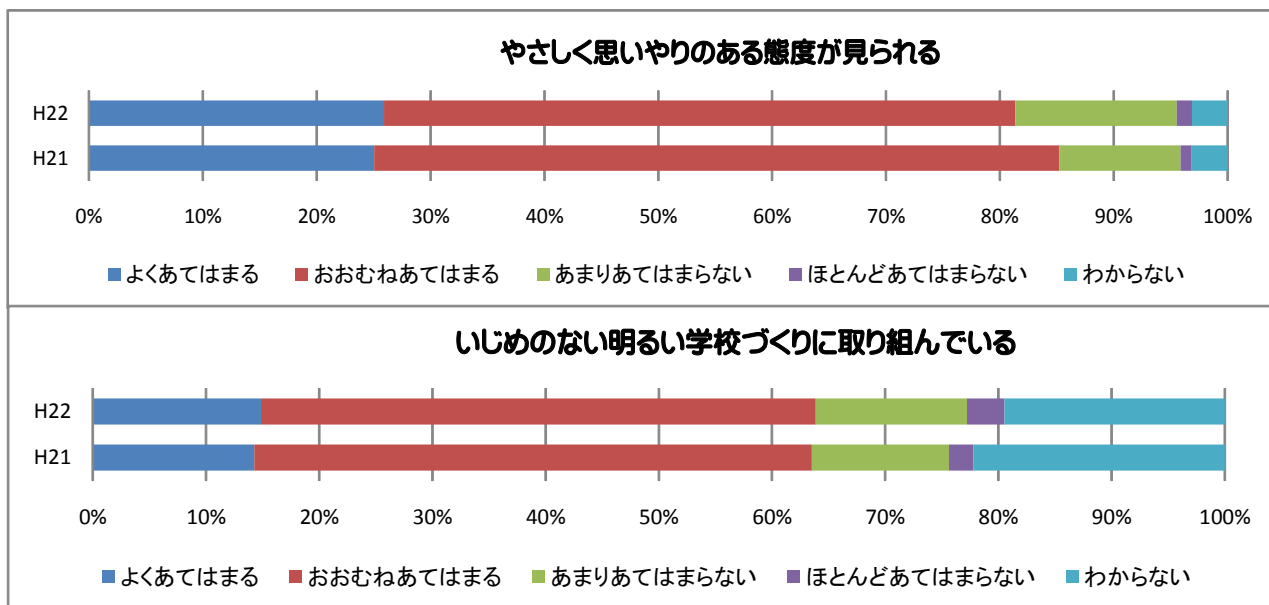
少人数指導やT・Tの充実、リソースルームの設置、特別支援教育の充実などを行い、きめ細やかな指導を実践し、それらのことを「校長室だより」などで保護者へ周知したものの、「わからない」という意見が16%もあるところを見ると、まだ十分でなかったのではないかと考えられる。今後も、文書などで子どもたちの変化をしっかりとアピールしていくことなどを通して、保護者の理解を得ていきたい。

(2) 人権教育・特別支援教育の充実

保護者アンケート③「子どもたちは、素直に『ありがとう』『ごめんなさい』が言える」では、

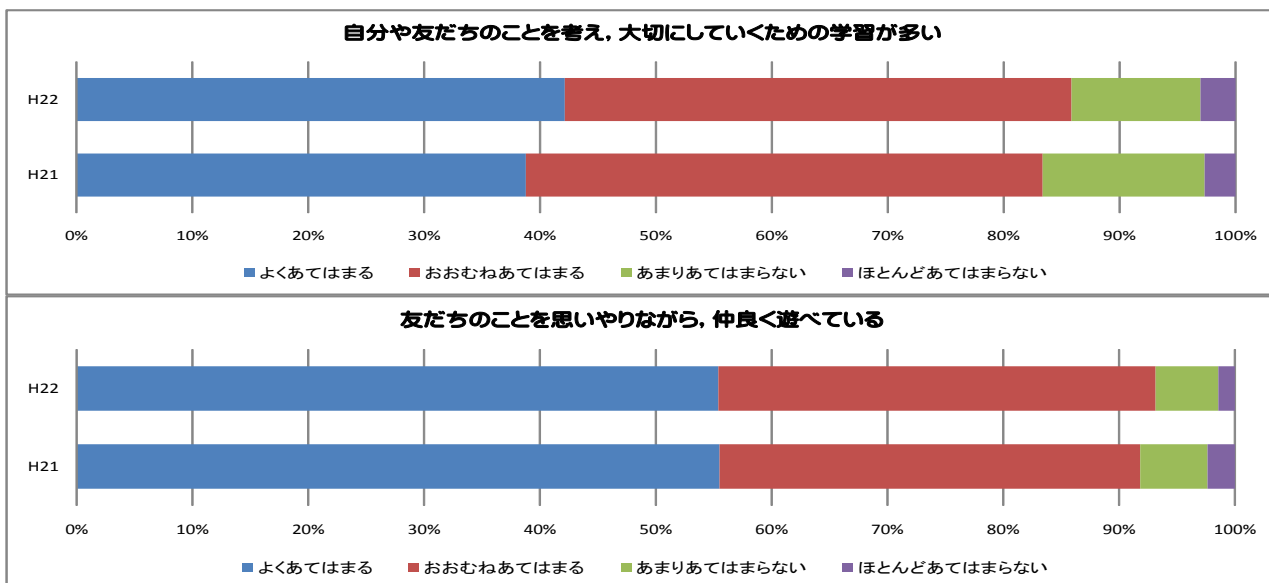


肯定的意見が77%で、④「子どもたちは、やさしく思いやりのある態度が見られる」では、肯



定的意見が81%、⑥「学校は、いじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる」では、肯定的意見が64%であった。やさしく思いやりのある態度について、少し減少したものの、おおむね昨年と同様の結果が見られた。

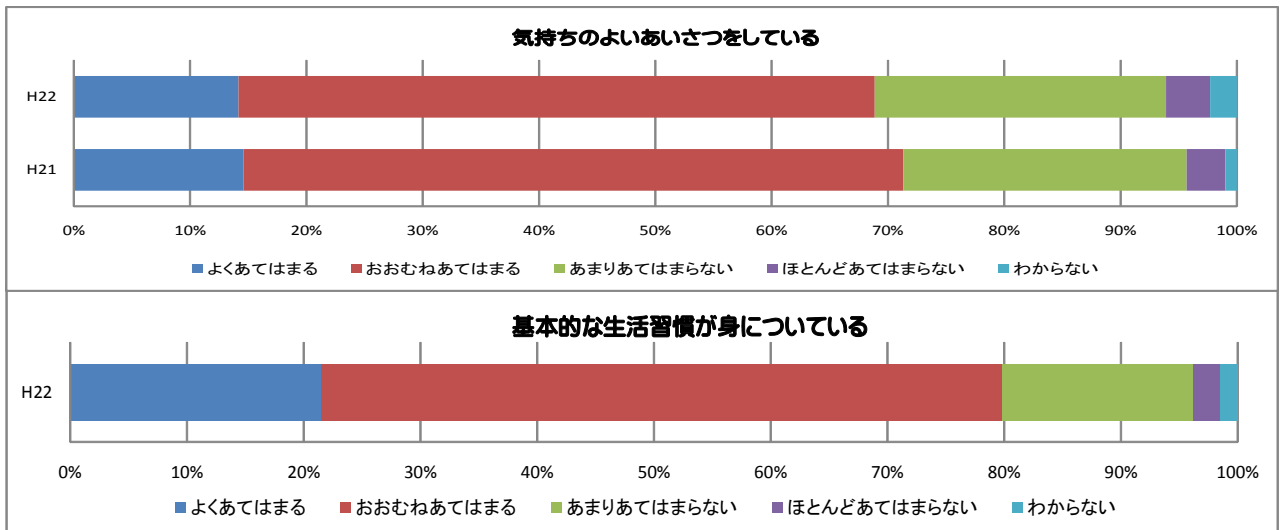
児童アンケート④「自分や友だちのことを考え、大切にしていけるための学習が多い」では、肯



定的意見が86%で、⑫「友だちのことを思いやりながら、仲良く遊んでいる」では、肯定的意見が93%で、ともに増加している。

これらの結果は、教職員アンケートにおいて「人権教育や道徳教育の一層の充実を図ってきている」という意見が80%であるという結果と呼応しているように感じる。今後も家庭と連携しながら、継続して取り組むことが重要であると考えます。

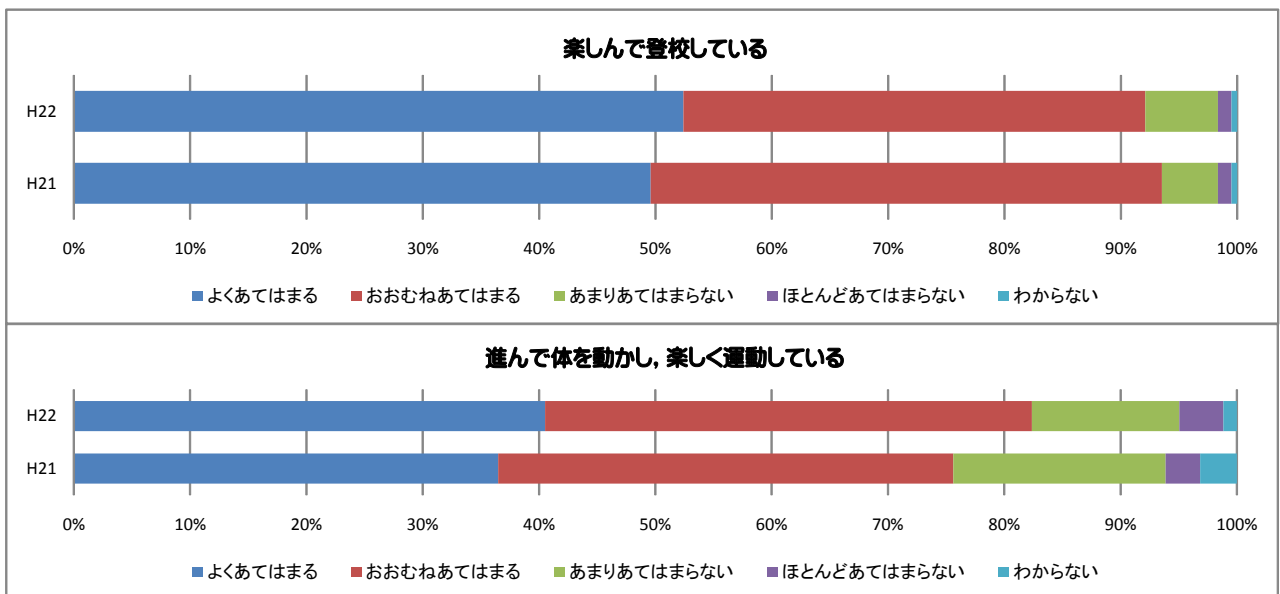
一方、保護者アンケート②「子どもたちは、気持ちのよいあいさつをしている」では、肯定的意見が69%で、保護者アンケート⑥「子どもたちには、基本的な生活習慣が身についている」では肯定的な意見が80%であった。また、教職員アンケートにおいても基本的な生活習慣の確立の項目については、肯定的意見が40%にとどまり、子どもたちのあいさつや言葉づかい、マナー、友達関係のトラブルなどにおいて課題がみられるという状況である。この点については、児童アンケートの自己評価結果と、かなりな差が見られるので、早急に学校と家庭・地域が協力して基本的な生活習慣の確立にむけて取り組むことが重要であると考えます。今後、本校は平成25年



度の四国道徳教育研究大会に向けて道徳教育の充実を図っていくことになる。その点においても今後に期待したい。

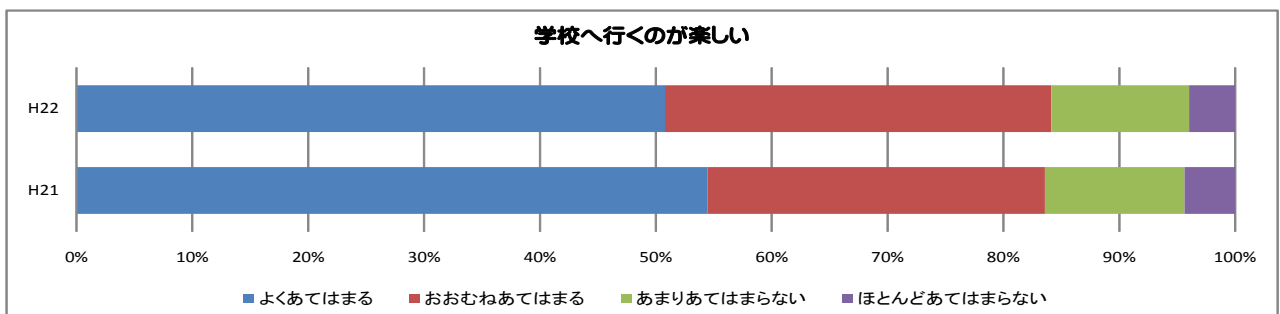
(3) 体育・健康安全教育和生徒指導

保護者アンケート①「子どもたちは、楽しんで学校に登校している」では、92%が肯定的意



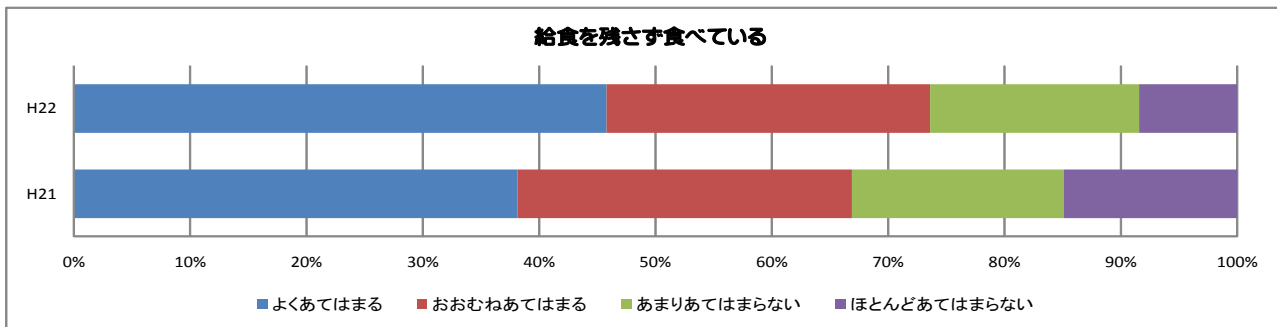
見で、⑤「子どもたちは、進んで体を動かし、楽しく運動している」では、肯定的な意見が82%であった。年間を通して「みんなの八南」や「八南体操」を実施したり、外遊びの奨励をしたりした成果で、改善がみられた。

また、児童アンケート①「学校に行くのが楽しい」では、84%が肯定的意見であった。また、



児童アンケート⑩「給食を好き嫌いしたり、残したりしないで食べている」では、肯定的意見が

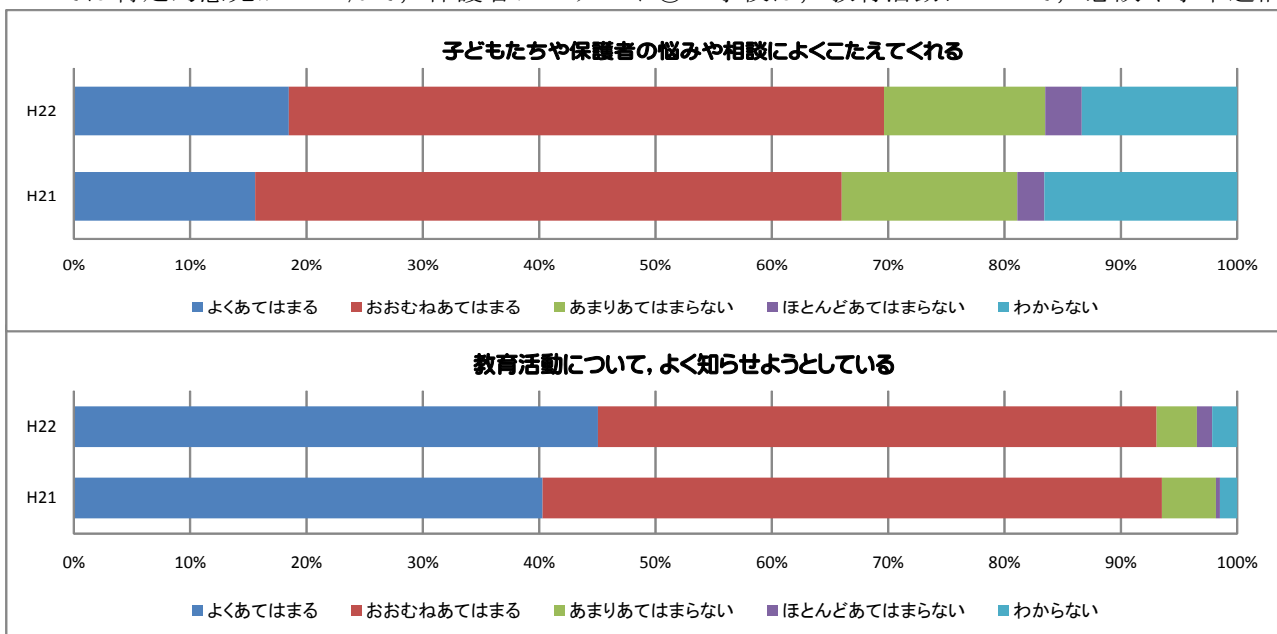
74%であった。保健学習を通して、食の安全性や大切さについて考えていった成果であろう。教職員アンケートでも、中四国体育研究大会実施に向けての取り組みで「充実した研修が行わ



れた」、「研修の成果が教育実践に生かされている」などの意見が全員から聞かれた。ただ、体育学習を通して培ってきた教職員一丸となって取り組む体制を、生徒指導の充実へとつなげていくことができたかについては、一部の教職員に負担がかかったことなど、少し課題が残った。「チーム八南」の協働体制をしっかりと構築し、対応をしていきたいと考えている。

(4) 家庭・地域との信頼関係づくり

保護者アンケート⑩「学校は、子どもたちや保護者の悩みや相談によくこたえてくれている」では肯定的意見が70%で、保護者アンケート⑫「学校は、教育活動について、懇談や学年通信



校長室だよりなどでよく知らせようとしている」では、93%が肯定的意見であった。

教職員アンケートでも、家庭や地域との連携を図ることで教育効果があがっていると、90%の肯定的意見があった。しかしながら、幼・保・中という学校間の連携については半数以上が十分でないと感じている。

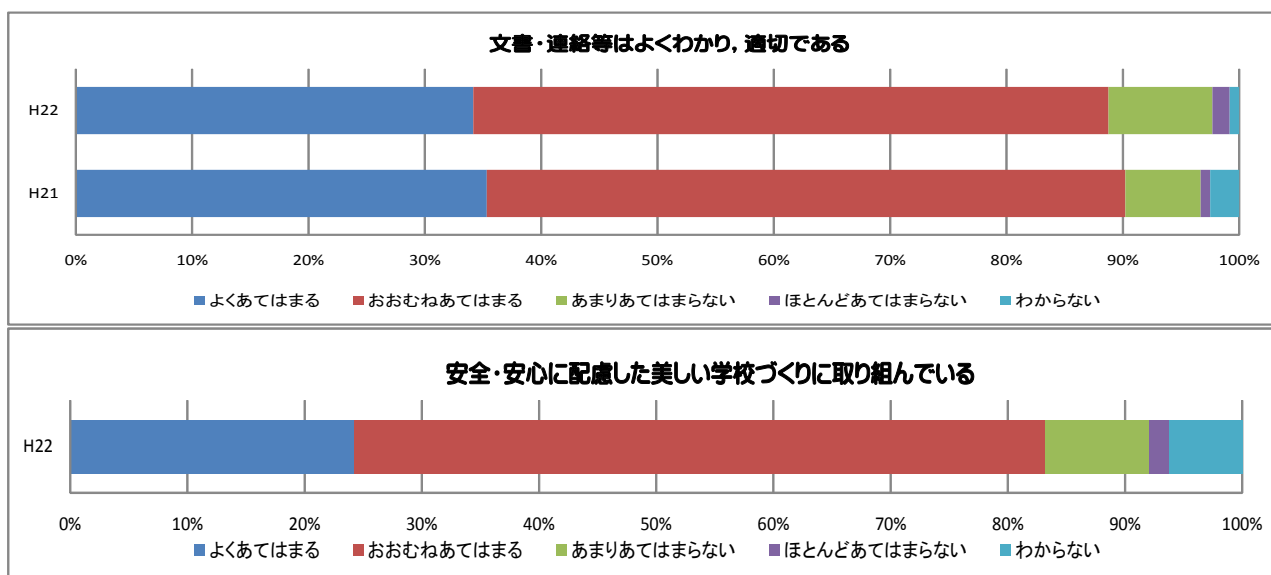
学力向上や生徒指導の充実、基本的な生活習慣の確立や豊かな心の育成において、家庭との緊密な連携はとても重要である。今後も緊密に連絡をとり合ったり、ホームページや学校通信などを有効的に活用したりするなど、継続かつ積極的に活動することで、地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。

(5) 危機管理への対応

学校の危機管理の対象としては、子どもへの犯罪行為、地震などの自然災害、食中毒を含む感染症、授業や課外活動における事故、通学中の交通事故などとさまざまである。それらへの対応としては、学校の危機管理体制づくりが重要である。すべての教職員が参加することが必要であり、教職員はそれぞれの状況に応じて平常時から役割を分担し、連携をとりながら活動を進め

ていく必要がある。

保護者アンケート⑬「学校が、保護者に出す文書・連絡等は、よくわかり、適切である」では、



89%が肯定的意見で、保護者アンケート⑪「学校は、安全・安心に配慮した美しい学校づくりに取り組んでいる」では、83%が肯定的意見であった。おおむね学校の取り組みについて評価をしてくれているようである。また、毎朝の各地域における立哨当番活動や自転車安全プレートをつけての地域巡回活動、青色回転灯パトロールの実施など、家庭や地域が協力して児童を見守ってくれている状況がある。

教職員アンケートでも、安全点検や避難・防災訓練を実施し組織的に対応できる体制づくりができてきたという肯定的意見が85%であった。しかしながら、緊急事態を避けるための早期対策の必要性や、実際に起きたときの対応などについて不安を抱いている教職員が30%ほどいる。訓練を繰り返し行うことや効果的なマニュアル作成をすることで、改善を図っていききたい。また、地域と連携をして危機管理について考えていくことも急務である。

4 今後の改善方策

以上の評価結果を踏まえて、職員会を利用し、教職員全員で子どもたちの現状と今後の方策について考える機会を設けた。3つのグループに分かれ、SWOT分析を行い、まとめていった。

本校の強みは、「職場の雰囲気がよい」「文化の森をはじめとして文化的環境が良好である」「児童数が多く、社会性が身につけやすい」「動ける身体づくりの結果、けがの減少が見られる」等があげられた。また、弱みとしては「地域のつながりが希薄である」「子どもの縦のつながりが弱い」「校舎の配置が悪い」「地域に遊び場が少なく、体力の低下が見られる」等があげられた。それらのことから、今後改善に向けて本校で取り組むべき活動として、「異学年交流（遊びや音楽、読み聞かせを通して）」「文化の森総合公園の積極的活用（連携）」「地域へ出かける学習の創出（例：園瀬川を学習の場に）」があげられた。

これらをもとに、来年度の重点目標を次のようにしたい。

- (1) 確かな学びの場となる授業づくり
(個に応じたきめ細かな指導、わかる授業づくりと指導方法の工夫、家庭との連携による家庭学習の確立など)
- (2) 豊かな心の育成
(人権教育・道徳教育の充実、自尊感情の育成、特別支援教育に対する協力体制の確立、生徒指導体制の確立など)
- (3) 体育・健康安全教育の充実
(体力づくりの日常化、外遊びの奨励と仲間づくり、系統的な保健指導など)
- (4) 家庭・地域との連携
(開かれた学校づくり、情報の共有、危機管理への対応など)

